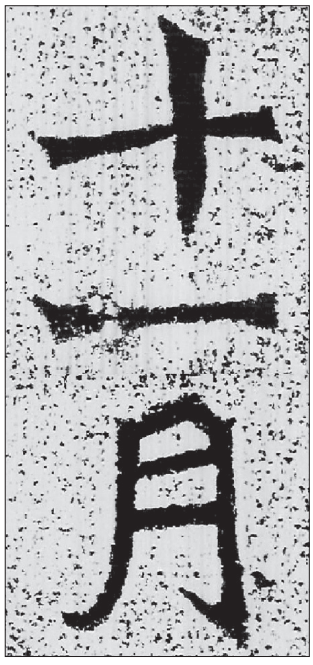
髙橋香樹会長担当　**半紙臨書課題**

（11月22日締切）出品料440円

## 牛橛造像記（ぎゅうけつぞうぞうき）



第三回

**1、字句**＝十一月

**2、形式**＝半紙タテ使用。「十一月」とタテ一行に臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。

**3、概観**＝「龍門二十品」の中で代表的な碑は、「始平公造像記」であり、又、今回取り上げた「牛橛造像記」も「龍門二十品」を代表する碑です。

この「牛橛造像記」は、「龍門二十品」中いちばん古い年記（四九五）を有するもので刻字はおおむね完好で、縦横画の起筆・収筆が明快で、字形はよく整い、品格が高く、情趣にも富んでいる。

康有為の「広藝舟双楫」に、「体方にして筆厚、画平らかにして堅直、宜しく先ず之（これ）を学ぶべし」高く評価している。

**4、各字のポイント**

**十**　横・縦画の起筆は、四十五度ぐらいから入筆し、強く突き、横画は中央に向かって筆を引き上げ、収筆に向かって押してゆく。

**一**　これも「十」の横画と同じ運筆。。

**月**　二画目横画の収筆で一旦止め、やや上へ押し上げてひじを張り出すような気持ちで、力を抜かずに斜め下へわずかにおろす。そして、再度上へ押し上げてから下へ引きおろす。

## 一字書課題　（11月22日締切）

# 報

(1)書体自由　(2)半紙タテ
(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
(4)出品料　四四〇円
(5)バーコード券の余白に**「一字書」**と記入

## 条幅随意参考



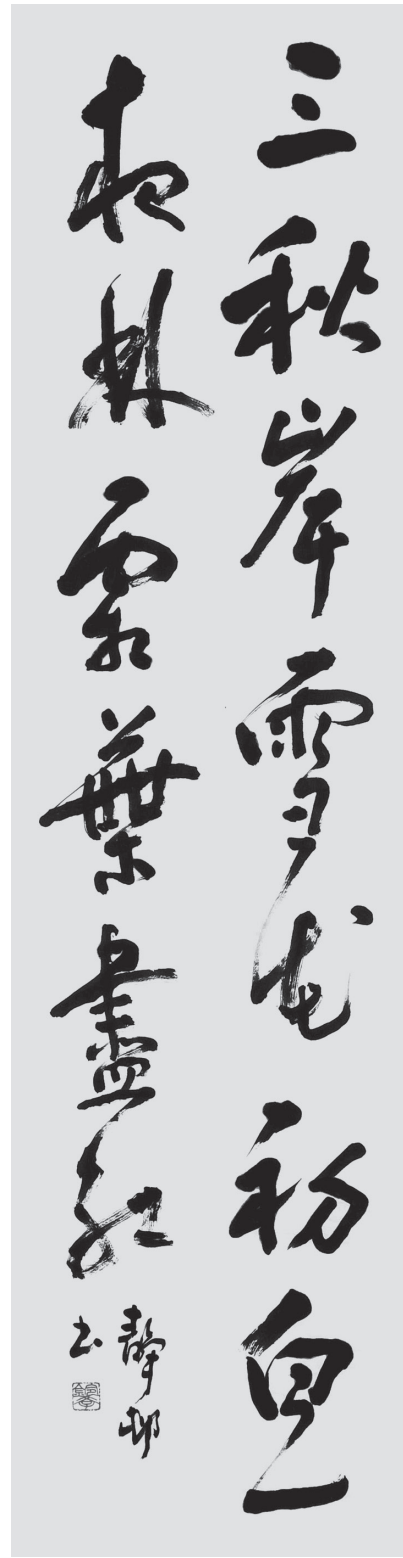
長樂王丘穆陵亮夫人尉遲

（『造像記（一）』天来書院）

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部（無料）にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に**「条臨」**と記入。

# 条幅部漢字課題参考　（十一月二十二日締切）

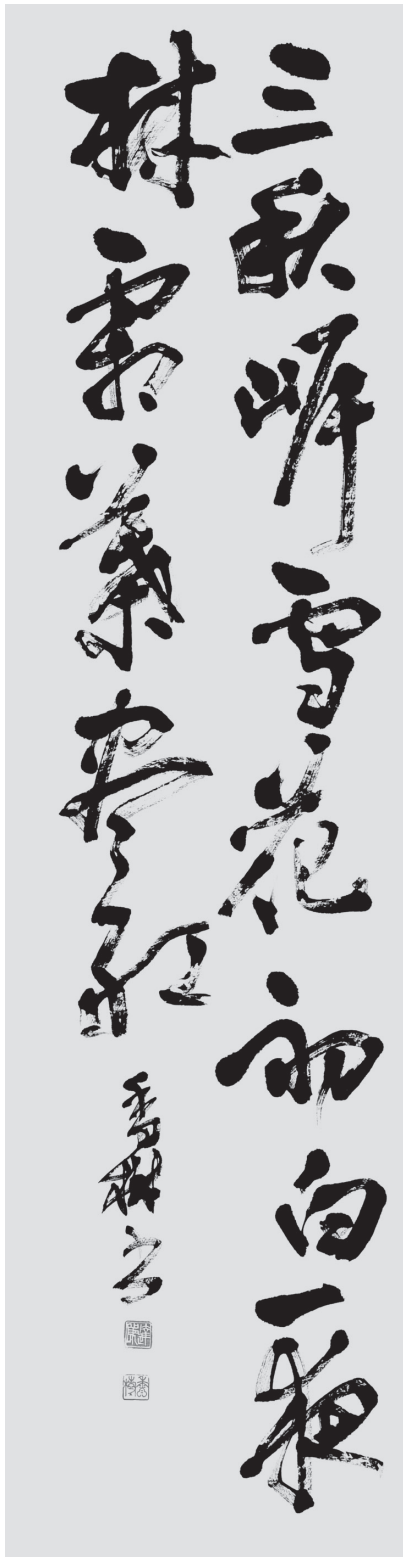
## A　鈴木静村先生書



三秋岸雪花初白　一夜林霜葉盡紅（温庭筠）
三秋の岸雪花初めて白く、一夜の林霜葉尽く紅なり。

**三葉**　三横画の長さの差、画間の差、さらには筆意の差。**白**から〝一〟への連綿は私のクセ、ただ末筆は軽く抜きたい。**林**　筆路を確かめてリズム的に。字体多い。字典からよく参照のこと。**盡**　草書体が多いので、今月は行書としたい。**落款**　余白を活かし、独自性を表出して下さい。

## B　髙橋香樹会長書



今回は、行草体としました。数字の「**三**」と「**一**」の処理と行の流れを考えました。「三」は、右から左に移動させて、「**秋岸雪**」は左から右への流れとし、「**花初白**」は左から右への流れとしました。二行目は、「**霜葉盡紅**」右から左へと移動させました。「**一**」は「**夜**」につけ一字に見えたらと思いました。

訳…晩秋の岸辺の雪は花を白くつつみ、一夜のうちに林の霜は葉を紅に染めあげる。

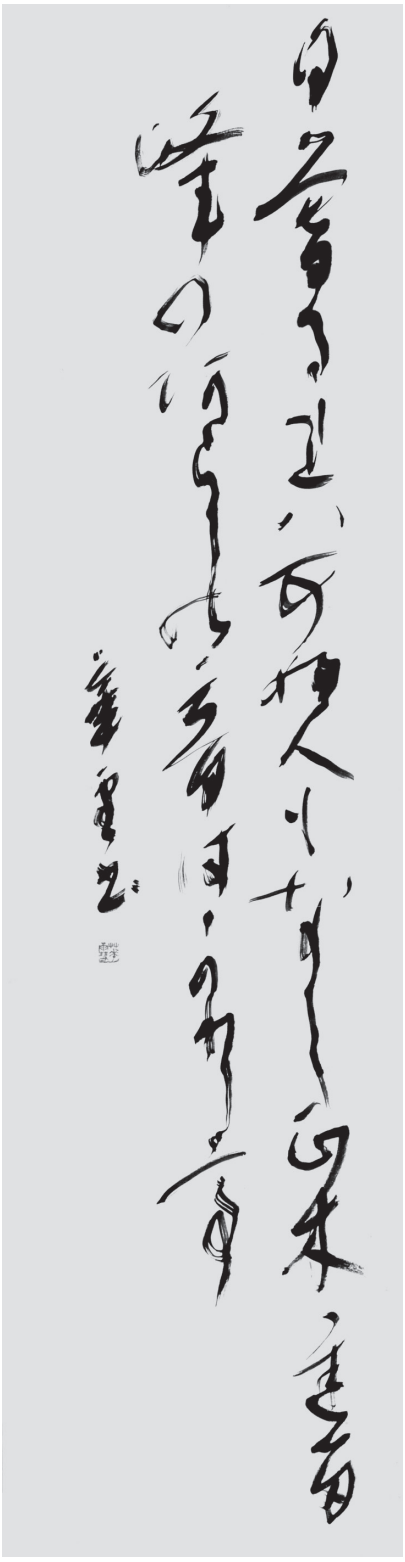
**予告**（十二月二十二日締切）　**風搖翠雨香浮席　月送金波影入廉（王雨）**

**◆注　意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を〇で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を〇で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

# 条幅部かな課題参考　（十一月二十二日締切）

A

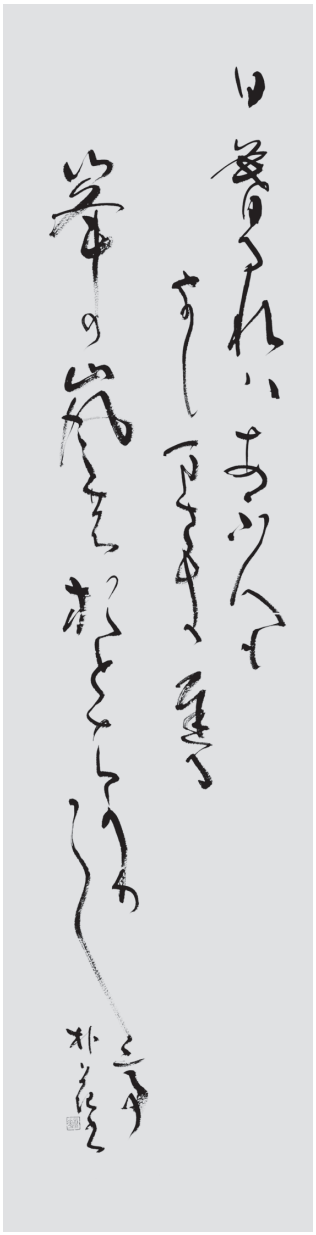
平岡華雪先生書



日暮るればあふ人もなしまさき散る峰の嵐のおとばかりして（新古今和歌集　俊頼朝臣）
日暮る連八あ婦人もなし正木遅留峰の阿らし能音は可利し亭

B

向山朴花先生書



日暮れる八あふ人も奈し万さ支遅る峯の嵐農於と者可利之亭

## 学び方

**歌意**…日が暮れるともう行きあふ人もいない。ただ正木の蔓を散らす峰の風の音がきこえるばかりだ。

上の句の夕暮の寂しさを上部にまとめ、下の句の荒涼とした風の音が響く情景を印象的に表現したいと思いました。

末尾の「亭」は、平岡先生のお手本に倣い、引き締めを試みました。

筆の遣い方によって生まれる線の面白味を試してみて下さい。

**歌と作者について**

本歌は、「日も暮れぬ人も帰りぬ山里は峰の嵐の音ばかりして」（後拾遺・源頼実）。

作者俊頼朝臣は、従四位上木工権頭。堀河院歌壇の中で歌人となり『金葉集』を撰進し、「堀河百首」の企画に参画するなど、院政期歌壇の中心として活躍した。その歌風は清新かつ詩情豊かなもので、俊成に継承されてゆく。法名は能貧。歌論に『俊頼髄脳（俊秘抄）』歌集に『散木奇歌集』がある。

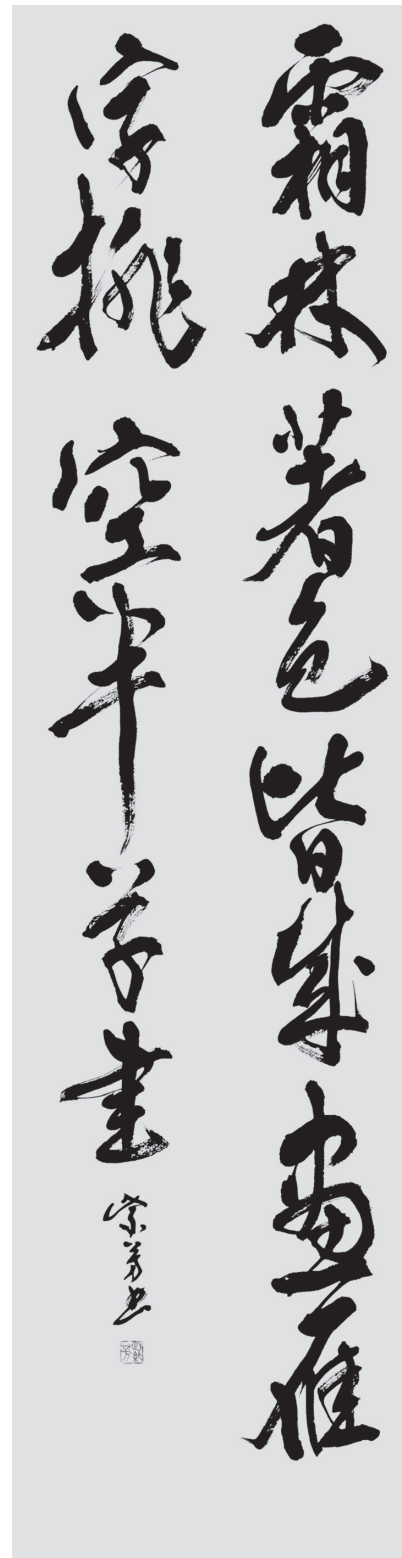
**予告**（十二月二十二日締切）　**音に聞く高師の浜のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ（祐子親王家紀伊　百人一首）**

**◆注　意**　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを〇で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条かを〇で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

# 条幅部随意参考

高橋紫芳先生書

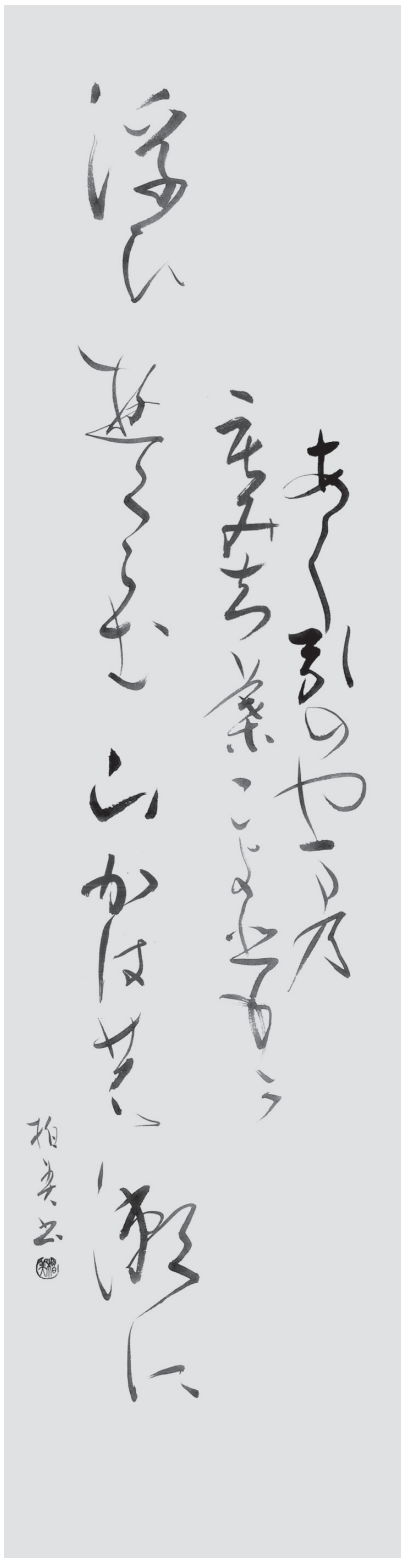
霜林著色皆成畫　雁字排空半草書（唐伯虎）
霜林色を著け皆画を成し、雁字空に排し半ば草書。



訳…霜の降りた林はすべて紅葉して絵のようなけしきになり、雁の列は大空に連なって草書に似ている、字と書に工夫が見える。

石島柏美先生書

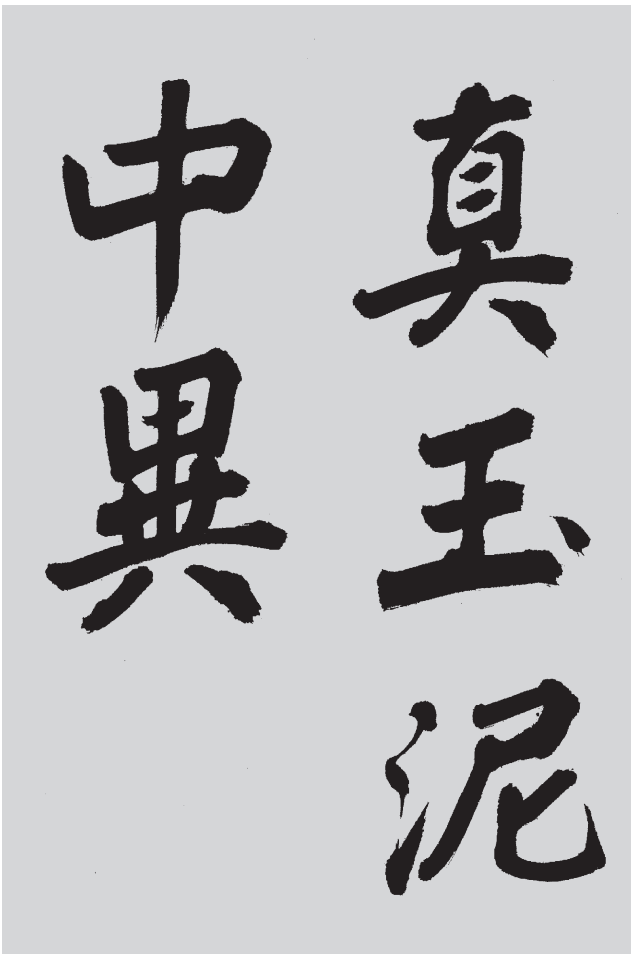
あしひきの山の黄葉今夜もか浮びゆくらむ山川の瀬に　（万葉集　大伴書持）
あし引のや万乃毛みち葉こよ悲も可浮び遊久らむ山かは農瀬に



歌意…（あしひきの）山のもみじは、今夜も浮んで流れてゆくことであろうか、山川の瀬を。

◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

## 漢字部課題参考　（十一月二十二日締切）




（十二月二十二日締切）　**高枕笑浮生（杜甫）**

平岡華雪先生書

真玉は泥中に異なり（禅林類聚）

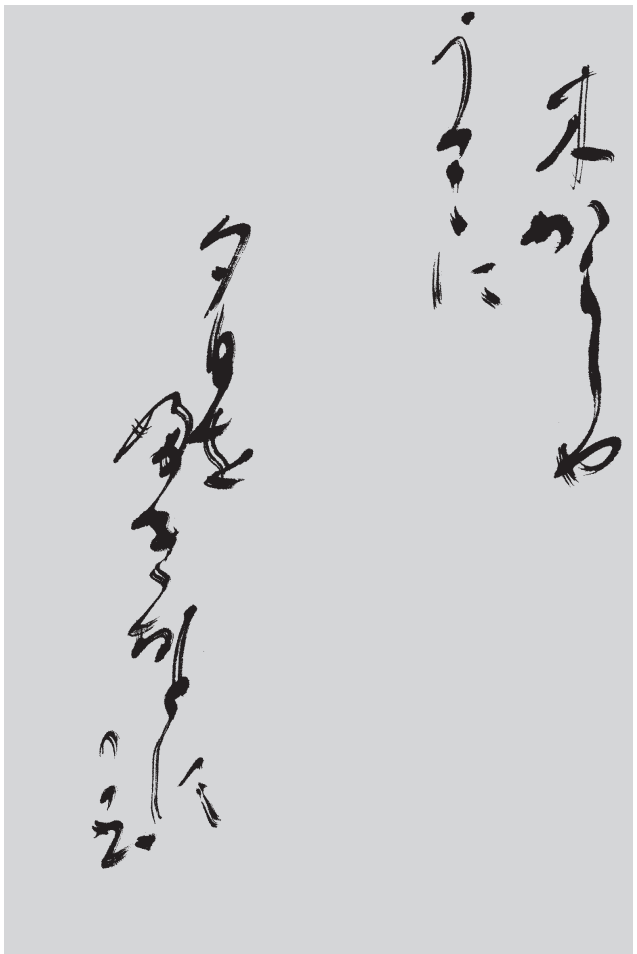
訳…名珠は泥中にあっても光を失わない。

**〈横画にもいろいろ〉**

横画が多い課題。同じ横画にも夫々の違いがあります。打ち込みも違っています。特に、初歩の人は学び摂って下さい。

二点は軽く　真　重々しく　異　角度

## かな部課題参考　（十一月二十二日締切）



（十二月二十二日締切）　**日を追うて歩む月あり冬の空（たかし）**

平岡華雪先生書

凩や海に夕日を吹きおとす（漱石）

木からしや三に夕日を婦きおと須

**〈細かい見どころ〉**

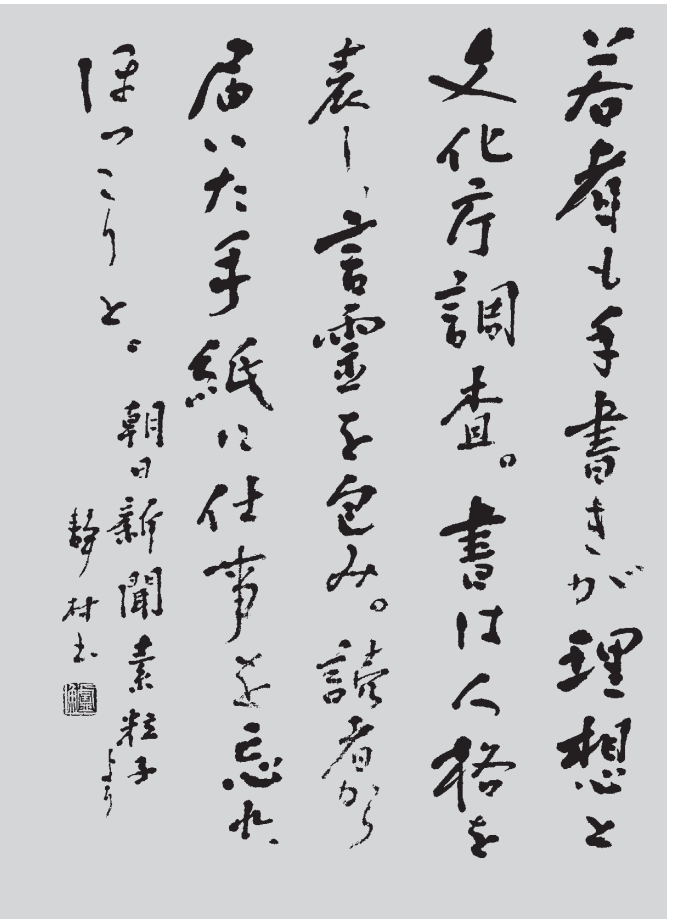
一筆書き切りの作品。墨継ぎをする場合は、下の句の「**婦**」が適切。「**や・に・を・須**」の末筆はサラッと抜く。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。
①出品部門（例：「漢字部」「かな部」）　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

## 漢字かな交じりの書課題参考（十一月二十二日締切）

鈴木静村先生書

若者も手書きが理想と文化庁調査。書は人格を表し、言霊（ことだま）を包み。読者から届いた手紙に仕事を忘れ、ほっこりと。（朝日新聞（夕刊）素粒子より）



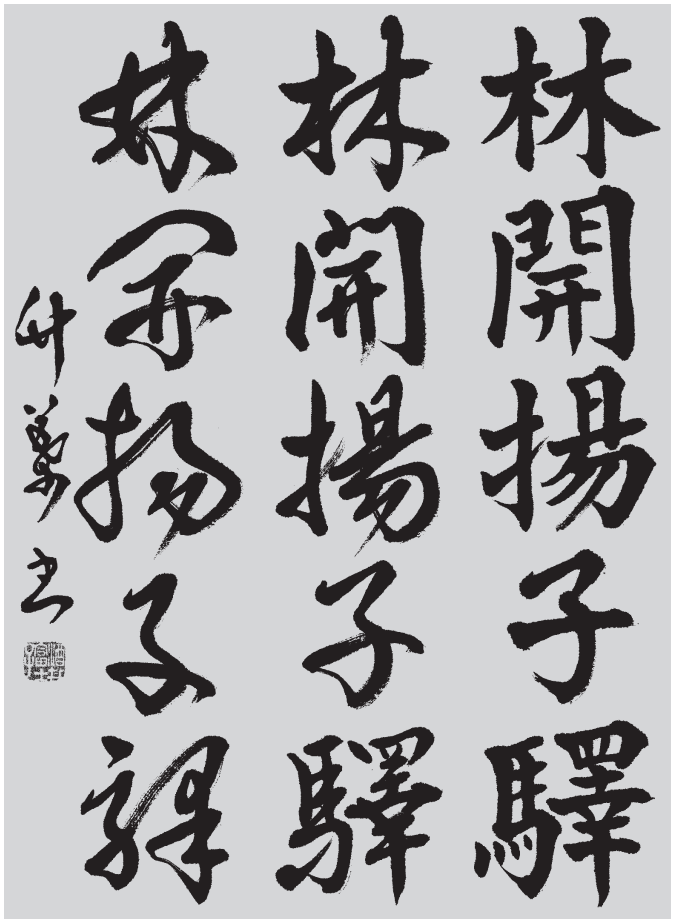

・潤渇を効果的に、特に墨継ぎの工夫を。・句読点は記号ではなく、一文字として有効化。
・漢字・かなの調和、漢字は凡そ行書体で。・かなは単体の筆意にて、連綿は二字を目途に。

(1)出品料550円　(2)バーコード券余白に「**漢か**」と記入

## 楷、行、草、三体課題参考（十一月二十二日締切）

酒井竹葉先生書

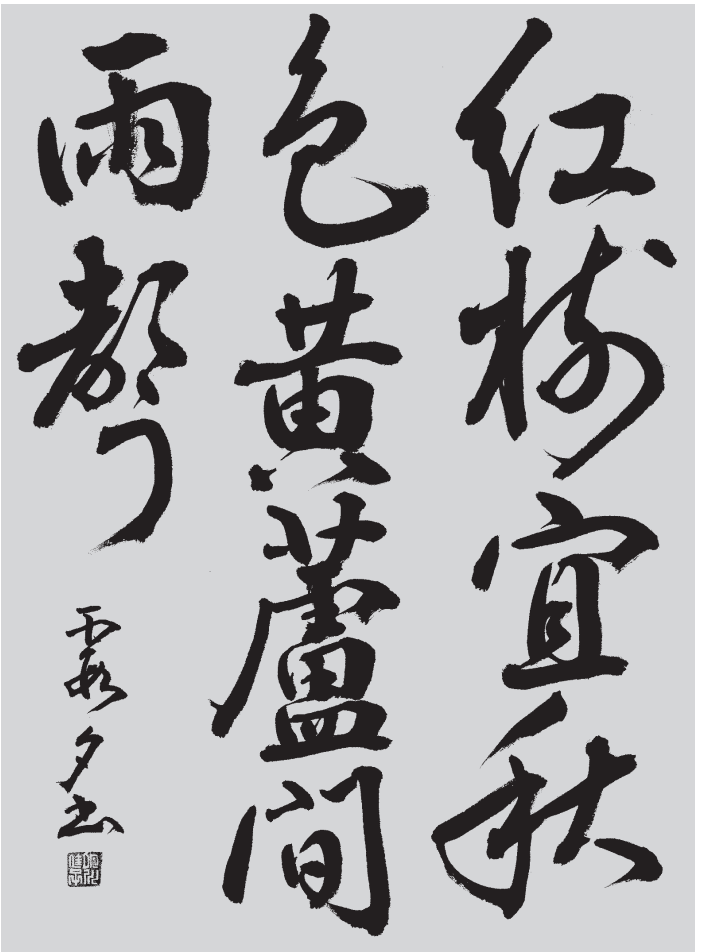
林開揚子驛（丁仙芝（ていせんし））　林（はやし）は開（ひら）く　揚子駅（ようしえき）




訳…林の中から揚子駅が顔を出し、

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

外川霞夕先生書



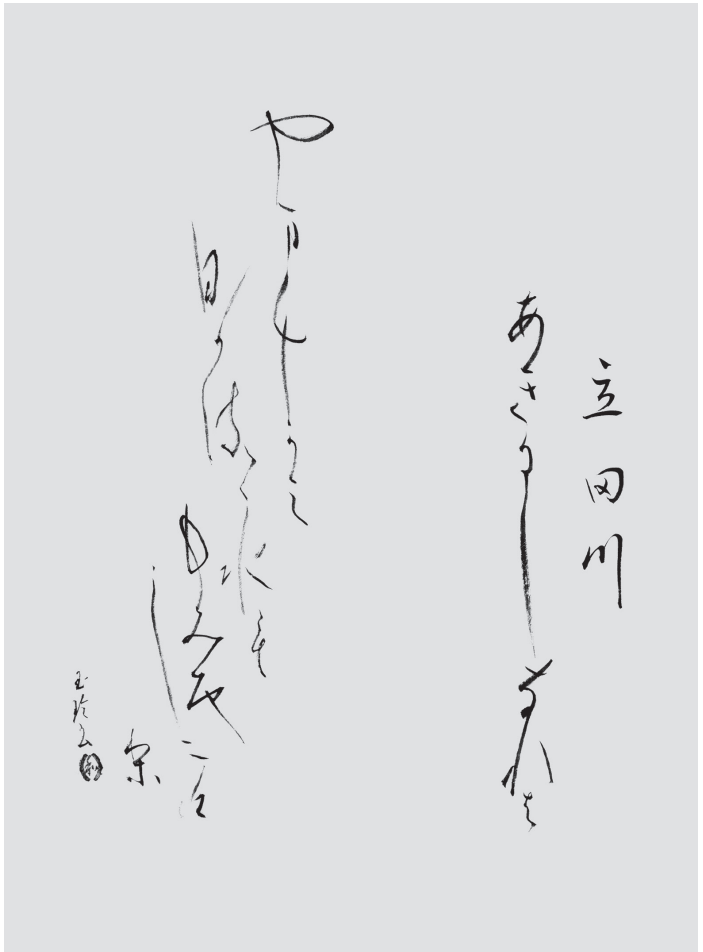

紅樹宜秋色　黄蘆間雨聲（古春）
紅樹秋色に宜しく、黄芦雨声に間る。

訳…もみじした樹が見るからに秋色がよく、黄ばんで枯れた芦は雨声をまじえている。





大和田玉玲先生書




立田川秋にしなれば山ちかみ流るる水ももみぢしにけり（紀貫之）
立田川あき尓し奈れ者や万千可三那可流ゝ水毛もみ地之二介梨

歌意…立田川は、秋になると山が近いので、流れる水に紅葉が散って流れ、紅になったことだ。

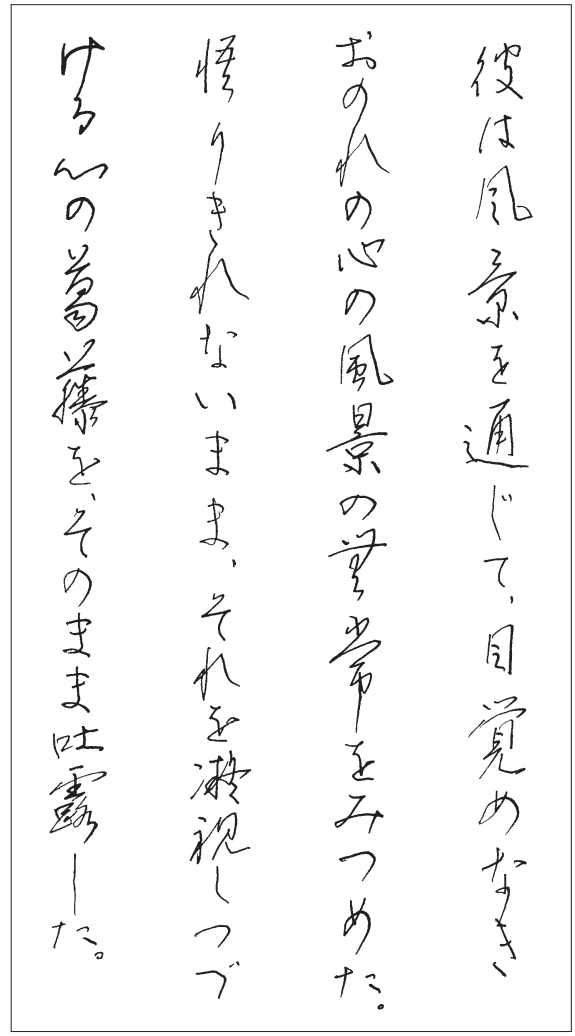
⑴随意部参考として出品してください。⑵会員外の出品料は460円。

# 硬筆部昇試課題参考　（十一月二十二日締切）

※正教授合格者は創作部門（自運作品、自由形式）に出品して下さい。出典をバーコード券に記入して下さい（作品の中に書いても可）。

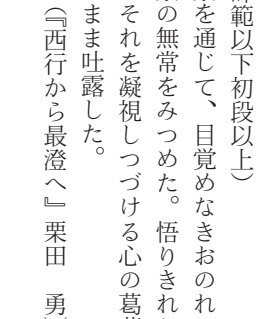
## 石原春香先生書

**昇試課題1　（師範以下初段以上）**
（※正教授合格者はこの課題を書かないで下さい）



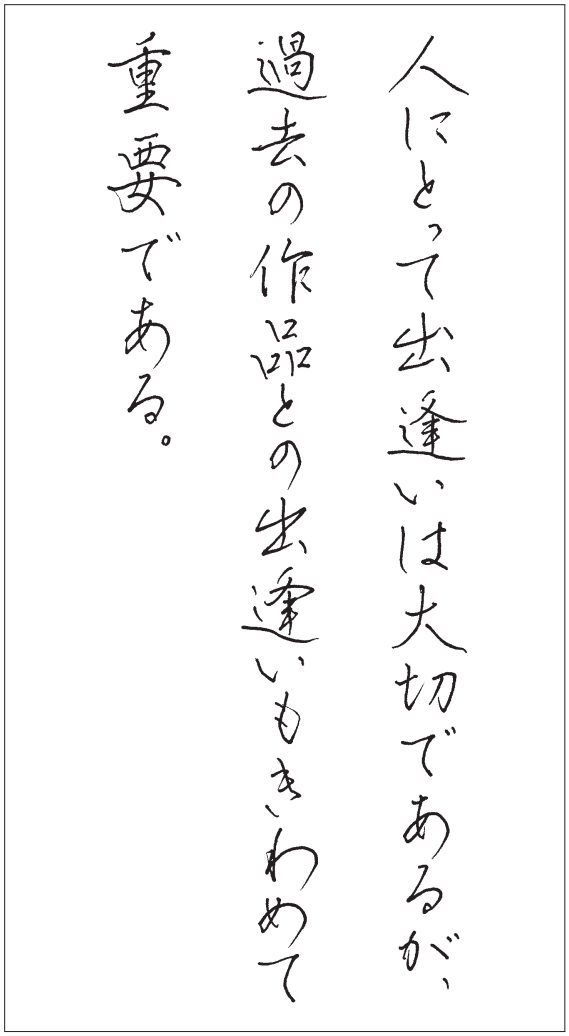

**課題1**（師範以下初段以上）
彼は風景を通じて、目覚めなきおのれの心の風景の無常をみつめた。悟りきれないまま、それを凝視しつづける心の葛藤を、そのまま吐露した。
（『西行から最澄へ』栗田　勇）

凝（参考）




## 赤木典子先生書

**昇試課題2　（初段格以下）**



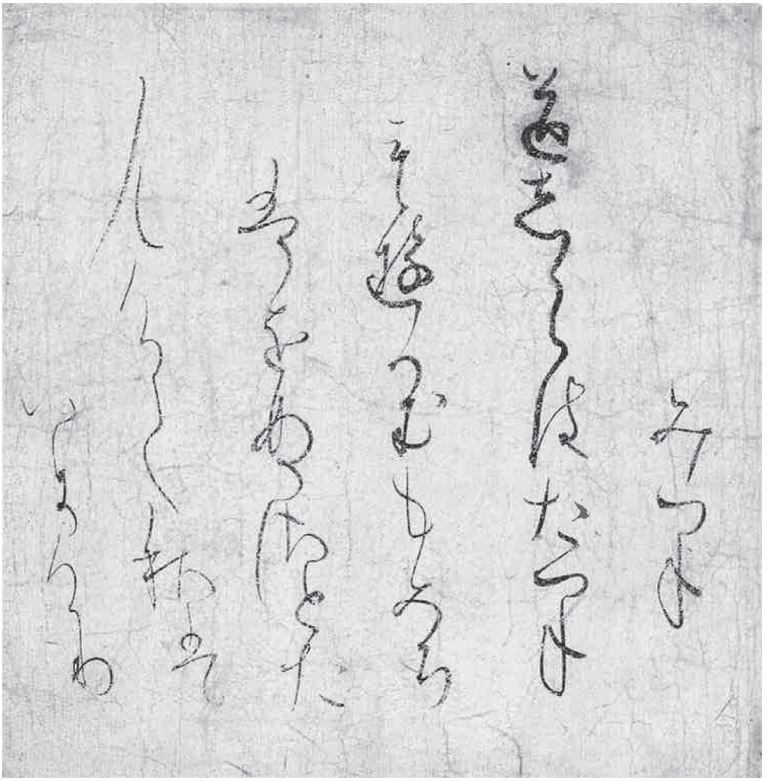

**課題2**（初段格以下）
人にとって出逢いは大切であるが、過去の作品との出逢いもきわめて重要である。
（『西行から最澄へ』栗田　勇）

**◆注意**

(1) 自分の段級に合った課題を選択。
(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。
(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
(4)
(5) 受験料は一、〇二〇円

# 研究部課題

（十一月二十二日締切）



（課題）かな臨書

道志らばたづ年毛遊可むもみぢ盤をぬ佐とた无介弓秋盤い尓介利

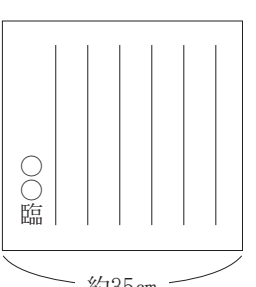
みつ年

出典　寸松庵色紙　伝紀貫之筆

（日本名筆選　二玄社）

▽注　意

(1) **条幅四分の一に臨書する。**




(2) **落款は「水心臨」と書き入れること。**
雅印は無用。
（出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可）

▽出品要項

(1) 資格＝推薦、準推薦、推薦格合格者
**（秋季定期昇級試験で初めて推薦格に合格した方も歓迎）**

**(2) 締　切＝十一月二十二日必着**

**(3) 発　表＝書莚一月号誌上**

**(4) 出品料＝九四〇円同封**

**(5) 出品方法**

**ア、出品は一人一点とする。**

**イ、私製の出品票（縦10㎝×横5㎝）を作品の左下にぶら下げて貼付する。**